

優勝

第9回 羽田野杯

「キョウメーションケア研究会 事例発表会」 絹の郷チーム 最優秀賞 受賞！

さわやか絹の郷信州おかやは、日頃より認知症ケアに力を入れておりますが、去る平成26年8月21日(金)にあすか製薬株式会社本社2階ホール(東京都港区)で開催されました平成26年度 第9回羽田野杯「キョウメーションケア 研究会 事例発表会」(出場9チーム)に於きまして絹の郷チームが最優秀賞を受賞しました！

この賞を励みにさらに認知症ケアに取り組み、諏訪地域での認知症ケアの中心的施設となるよう努力してまいります。

(向かって右から)
山本サブリーダー
小林リーダー
安田入居相談室室長



優勝トロフィ、賞状

「キョウメーションケア」とは？

キョウメーションケアとは、医療と結びついた根拠に基づく新しい認知症ケアの事です。

近年認知症という言葉は一般的に使用されていますが、それが病気ということあまり知られていないかと思います。認知症にもそれぞれ原因があり、それぞれ出現する症状が異なります。

大きく分けると認知症の種類は4つです。

- ・アルツハイマー型認知症
- ・脳血管性認知症
- ・混合型認知症
- ・その他の原因の認知症

一般的な怪我や病気を治すのにそれぞれの対処療法があるのと同じく、認知症への間違ったケアが症状を悪化させる原因となることがあります。

まずは、ご入居者様又はご家族様から、ご本人の幼少期から今までの歴史を出来るだけ多く聞き出すことから始めます。認知症の方は、最近の出来事は記憶できなくなりますが、幼少期から青年期までの記憶ははっきりと残っています。会話の中にそういった時期の話を折り混ぜることにより、なじみの関係を作り出すことができます。また、身体データ(現在の病状・血圧・体温・呼吸数・脈拍・血中酸素量・眠り方のデータ・排泄量と回数・水分摂取量)を日々取ることにより、その方の身体状況を客観的に把握します。

それらのデータを基に、どのようにケアすればよいかを判断します。それぞれの認知症状に合わせて医療と結びついた根拠あるケアをすることにより、ご入居者様のストレスを軽減し、認知症状の進行を抑えることが出来ます。

絹の郷は、認知症ケアに本格的に取り組んで間もないですが、諏訪広域の施設で、認知症ケアの中心施設になるよう努力してまいります。

キョウメーションケアに関する詳しい内容は、社団法人認知症高齢者研究所のホームページをご覧ください。<http://www.kyomation.com/>

さわか絹の郷信州おかや 認知症ケアで最優秀賞



「キョウメイションケア」の事例発表会で最優秀賞を受賞した「さわか絹の郷信州おかや」

介護付き有料老人ホーム「さわか絹の郷信州おかや」(岡谷市郷田)が東京都で行われた「キョウメイションケア」という認知症ケアの全国的な事例発表会で最優秀賞を受賞した。施設利用者の患者にチームで対応し、行動、心理症状の軽減、改善を図った取り組みが評価された。
(野村知秀)

「さわか絹の郷」の半生は、認知症の患者と向き合い、介護の現場が図られたという。洗剤を意図的に取り入れた。洗濯物をたたむなど役割を設け、感謝の気持ちを伝えたい。入眠時には体を温めるケアを行った。その結果、睡眠障害の軽減が図られたという。岡谷市郷田の「さわか絹の郷」では高齢者の仲間入りを果たし、今後認知症を患う利用者が増えると思込み3月から「キョウメイションケア」を取り入れた。安住副社長(入居者)は「発表会ではとても興味深い報告が多かった。今後、認知症ケアに一層力を入れていく必要がある」と話している。

絹の郷によると、キョウメイションケアは、認知症患者に対し、比較的記憶が残っていると考えられる10〜30代のころの思い出に「共鳴(寄り添う)」し、親しい関係を築く。提唱者の別田野政治さんが所長を務める認知症高齢者研究所では、寄り添う中で得られた情報と約800万件のケア記録を基に症状の原因特定と予後予測を行い、最適な関わり方を導き出すとしている。

「キョウメイションケア事例発表会」絹の郷が最優秀賞を受賞！
長野日報社に紹介されました。
(平成26年9月18日(木)長野日報社)

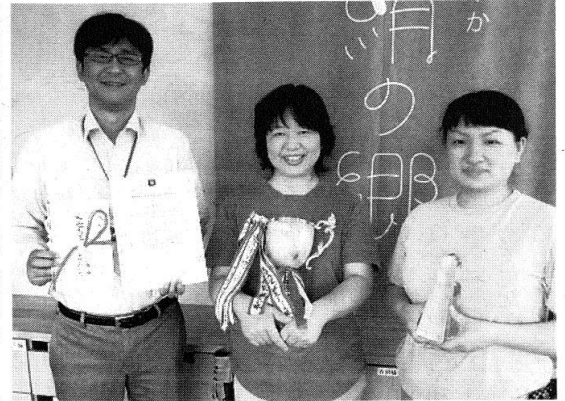
キョウメイションケアに関するお問い合わせ
(社)認知症高齢者研究所
〒224-0032
横浜市都筑区茅ヶ崎中央2014401
電話:045-949-0201
<http://www.kyomation.com>

平成26年9月21日(日)
株岡谷市民新聞社
岡谷市内ニュースD面

郷田の「さわやか絹の郷(さと) 信州おかのや」(松崎厚広施設長)が、このほど東京港区で開かれた「第9回キョウメーションケア事

認知症の人の思いに「共鳴」
キョウメーションケア発表会
さと
絹の郷が最優秀賞

例発表会」で最優秀賞を受賞した。「キョウメーションケア」とは、認知症高齢者研究所(横浜市)所長羽田野政治さんが提唱した、認知症の人の思いに「共鳴」していくケアの仕組み。約800万件のケア記録をベースに認知症症状の原因特定と予後予測を行い、最適な関わり方を導き出す。認知症ケアに力を入れる同施設では、4月からキョウメーションケアを学ぶ1年間の研修プログラムを行うなど、積極的に介護の現場に取り入れてきた。入居者一人一人について、出身地、出身校、職業、趣味、好き嫌いと話している。発表会では同施設の職員3人が事例を紹介。審査員7人の投票により出場全9チームの中から最優秀賞に。松崎施設長は「これからさらに認知症対応の社会的ニーズが増えていく。施設全体で取り組んだケアの勉強が結果として表れたことで、今後の励みとなる」と話している。



受賞を喜ぶ絹の郷職員ら

「キョウメーションケア 事例発表会」
絹の郷が最優秀賞を受賞！
岡谷市民新聞に紹介されました。
(平成26年9月21日(日) 株岡谷市民新聞)

キョウメーションケアに関するお問い合わせ
(社)認知症高齢者研究所
〒224-0032
横浜市都筑区茅ヶ崎中央20-14-401
電話:045-949-0201
<http://www.kyomation.com>